

令和7年度 JA山形おきたま さくらんぼ 病 害 虫 防 除 基 準 ①

桜桃振興部会

月 日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用 日数	総 回 使 用 数	散布量 (10a)	注 意 事 項	
① ／	休眠期	-	水 (88%)	※水88ℓにハーベストオイル2ℓ+石灰硫黄合剤10ℓを希釈する。 (合計100ℓ)		400%	○ハーベストオイルの希釈液に石灰硫黄合剤を10倍になるよう混用する。 ○カイガラムシ類の発生が多い場合は、ハーベストオイル50倍を希釈後にアプロードフロアブル1,000倍(7日前/2回以内)を混用し散布する(石灰硫黄合剤は入れない)。 ○休眠期の石灰硫黄合剤散布は樹脂細菌病にも効果がある。 ○耐寒性(凍霜害)強化を期待し、霜・低温の恐れがある場合はアイスバリア333倍を散布する。(散布液がしつかり乾く必要があるので、夕方散布は控える) 【耕種的防除(病害対策)】 ○剪定の切り口には、トップジンMペーストまたはバッチレト(3回以内)を原液で塗布する。 ○樹脂細菌病対策として、風当たりが強い園地では、防風ネットを設置する。また、樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を大きめに削り取り、癒合剤を塗布する。 ○灰星病対策として、枯死枝やミ行果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。	
		カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍(2%)	発芽前	-			
		越冬病害虫 ハダニ類 カイガラムシ類	石灰硫黄合剤 10倍(10%)	発芽前	-			
② ／	佐藤錦の 開花直前 (風船状の頃)	灰 星 炭 病 核 病 褐色せん孔病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	21日前	5回以内 (但し、萌芽後は 2回以内)	500%	○トレノックスフロアブルに替えて、ICボルドー66D 40倍(-/-)を散布してもよい。 ○降雨が多く、低温が続く場合は、スミックス水和剤1,500倍(14日前/3回以内)を2〜3分咲き時に追加散布する。	
		星	訪花昆虫を保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまで殺虫・殺ダニ剤の散布をしない。 マメバチの増殖は5月中旬まで活発に行われるので、殺虫殺ダニ剤を控える。					
③ ／	8分咲き (満開期)	病 重	灰星病、炭そ病、 褐色せん孔病、 黒斑病、幼果園核病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内	500%	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○灰星病、幼果園核病防除の重要な時期なので、遅れず散布する。
			ハマキムシ類 ケムシ類	バイオマックスDF 2,000倍(50g)	発生初期 但し、 前日まで	-		
④ ／	落花始め (花びらが褐変 し始めたころ)	点 防 除	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	500%	○パスワード顆粒水和剤は、スチューベン、ヒムロト、バッファローの新葉に波打症状の薬害があるので、飛散しないように注意する。 ○コアオカシカミによる葉や果実の吸汁被害が多い園は、訪花昆虫が活動していない早朝や夕方にウラウDF 2,000倍(前日/2回以内)を加用散布する。 ○前回散布(落花始め)より間隔があく場合は、オーソサイド水和剤80 1,000倍(3日前/5回以内)を散布する。 ○乾燥効果による落弁促進のため、ロイヤルシリカMG700倍を混用する。
			灰星病	パスワード顆粒水和剤 1,500倍(66g)	前日	2回以内		
			灰炭そ 病 褐色せん孔病	オーソサイド水和剤80 800倍(125g)	3日前	5回以内		
⑤ ／	5月中下旬 (5月20日頃)	カイ イ ガ ラ ム シ 重 点 防 除	灰炭そ 病 褐色せん孔病	オーソサイド水和剤80 1,000倍(100g)	3日前	5回以内	500%	○コスガシハの発生がみられる園では、スカシバコンL40〜100本/10aをこの時期までに設置する。 ○早生種の収穫前防除はこの回までとする。 ○カイガラムシ類の発生が見られる場合は、5月中下旬の防除の前(5月中旬)にトランスフォームフロアブル2,000倍(3日前/3回以内)を単用散布する。
			カイガラムシ類、 カメムシ類、オウトウ ショウジョウバエ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	1回		
			ハダニ類	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回		
⑥ ／	6月上旬	灰星病、炭そ病、黒斑 病、褐色せん孔病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	3回以内	400%		
		オウトウハマダラミバ エ、ショウジョウバエ	アディオソフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	2回			

令和7年度 JA山形おきたま さくらんぼ 病 害 虫 防 除 基 準 ②

桜桃振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	注 意 事 項
⑦ ／	6月中旬	灰星病 褐色せん孔病 黒斑病 重点防除 ハマキムシ類、ケムシ類、オウトウショウジョウバエ、コスカシバ	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内	400%	○ハダニ類の発生が見られる場合はダニオーテフロアブル2000倍(前日/1回)を散布する。 ○収穫が7月以降も続く紅秀峰がメインの園地では、ナリアWDG2,000倍(前日/3回以内)とスタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日/2回以内)を混用して散布する。
			エクシレルSE 2,500倍(40cc)	前日	3回以内		
⑧ ／	6月下旬 ～ 7月上旬	灰星病 オウトウショウジョウバエ	インダーフロアブル 5,000倍(20cc)	前日	2回以内	400%	
			アーデントフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	3回以内		
収穫後は、花芽充実のために病害虫(ハダニ類・せん孔病・炭そ病)防除を徹底する。							
⑨ ／	収穫直後	展着剤 褐色せん孔病 炭そ病 ケムシ類 ハダニ類	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) トレノックスフロアブル 500倍(200cc) スミチオン水和剤40 800倍(125g) コロマイト乳剤 1,000倍(100cc)	— 21日前 14日前 7日前	— 5回以内(但し、萌芽後は2回以内) 2回以内 1回	500%	○今後急速にハダニが発生しやすくなる時期なので、散布ムラのないように、十分な量を散布する。 ○収穫が終了しない園地が近くにある場合は、飛散に注意する。 ○これ以降もハダニ類の発生が見られる園地では、ダニゲッターフロアブル2,000倍(前日/1回)を単用散布する。なお、ダニゲッターフロアブルは開花期の水稲(8月上旬頃)に被害が発生する恐れがあるので、水田に隣接する園地では、水稲の開花期間を避けて散布する。
⑩ ／	前回散布の10日後(7月下旬)	展着剤 褐色せん孔病	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	— 収穫終了後～落葉期まで	— 3回以内	500%	○ナミハダニの発生がみられる場合は、コテツフロアブル2,000倍(7日前/2回以内)を散布する。 ○8月上旬以降、再度ハダニ類の発生が見られる場合には、アカリタッチ乳剤3,000倍(前日/—)を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。 ○カイガラムシ類の発生が多い場合は8月上旬にアプロードフロアブル1,500倍(7日前/2回以内)を単用散布する。 ○降雨が多い場合や生育が早く防除間隔が空く場合は、オキシントー水和剤80 1,200倍(収穫終了後～落葉期まで/3回以内)を追加散布する。
⑪ ／	8月中旬	固着性展着剤 褐色せん孔病 樹脂細菌病 アブラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ	アビオン-E 1,000倍(100cc) ICボルドー66D 40倍(2.5kg) ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	— — 14日前	— — 2回以内	500%	○コスカシバの発生が見られる園地では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日/2回以内)を枝幹部に丁寧に単用散布する。
⑫ ／	9月中旬～10月中旬	コスカシバ	トラサイドA乳剤 200倍(500cc)	収穫後～萌芽前(幼虫食入期)	1回	350%	○トラサイドA乳剤は葉にかかるると葉害の恐れがあるため、枝幹部のみに散布する。 ○褐色せん孔病が多い園地では、落葉期にICボルドー66D(—/—) 40倍を散布する。(樹脂細菌病にも適用がある) ○10月下旬～11月上旬に雑草対策及び野鼠対策としてバスタ液剤(前日/3回以内)またはザクザ液剤(前日/3回以内)を散布する。 ○野鼠対策として根雪前にフジワゾン粒剤1樹当たり200gを、樹冠下半径50cmの範囲の土壌と均一に混和する。(使用回数2回以内)

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま デラウェア施設栽培 病 害 虫 防 除 基 準 ① ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総 使 用 回 数	散布量(10a)	注 意 事 項
ブドウトラカミキリ防除は落葉後の秋冬期防除の効果が高い。散布しなかった園地はクムラス散布前にトラサイドA乳剤300倍(休眠期/2回以内)を散布する。						
コウモリカ・(キクイムシ)対策→粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃し、見つけ次第捕殺する。						
① ／	休 眠 期	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 $\frac{g}{L}$	○春季にトラサイドA乳剤を散布した場合、7～10日間、間隔をあけて散布する。 ○ハダニ・ハモグリダニの多い園地では必ず散布する。 ○コウモリカ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にガットサイドS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロゼソフト(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2～10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
		ハダニ類、ブドウハモグリダニ	クムラス 300倍(330g)	休眠期 —		
／	特 別 散 布 (発 芽 直 後)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 $\frac{g}{L}$	○カシムシ類に対する効果も期待される。結果母枝基部の繭芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○周囲にモミが自生している場合は、カシムシ類の繁殖場所となるので除草を徹底する。
		フタテンヒメヨコバイ	サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	21日前まで 2回以内		
② ／	第1回ハダニ防除 展 葉 5 ～ 7 枚	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 $\frac{g}{L}$	○ハダニ防除にあたっては、散布ムラが出ないように注意し、早めの防除を徹底する。 ○ベンコゼブフロアブルの使用は、「開花前まで」とする。 ○ブドウトラカミキリ対策として、せん定枝は5月下旬までに処分する。 【デラウェア 種子混入防止】 アグレプト液剤/ストマイ液剤20 使用方法 希釈倍数 1,000倍 使用回数 1回 満開予定日の14日前～満開期 花房浸漬 (第1回目ジベレリン処理と併用) フリーテラや例年種子混入がみられる園地では、第1回目GA液に必ず混用する。 【ジベレリンを効かせる管理】 高温乾燥下ではジベレリンの吸収が劣るので、展葉期から定期的にかん水するとともに極端に乾燥している場合は、ジベ処理当日にかん水をする。処理できない場合は棚面散水を実施し、湿度確保に努める。
		べと病、黒とう病、晩腐病、褐斑病	ベンコゼブフロアブル 1,000倍(100cc)	45日前まで 2回以内		
		アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカシムシ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	14日前まで 3回以内		
		ハダニ類、ブドウサビダニ	マイトコネフロアブル 1,000倍(100cc)	21日前まで 1回		
③ ／	灰かび重点防除 開 花 直 前	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 $\frac{g}{L}$	○スイッチ顆粒水和剤は桜桃の葉に葉害を生じるので、近隣に桜桃がある場合はスイッチ顆粒水和剤に代えてゲッター水和剤1,500倍(45日前/1回)を使用する。 ○開花期前後は、灰色かび病にかかりやすい時期なので、ハウス内が多湿にならないよう換気を徹底する。 ○害虫の発生が早い場合は、アデオン水和剤2,000倍(7日前/5回)を加用散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおして、トップジンM剤(ゲッター水和剤)とベンレート剤(ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。
		灰色かび病、晩腐病	スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g)	30日前まで 2回以内		
④ ／	灰かび重点防除 第2回ハダニ防除 落 花 直 後 (花かすが残っている時期で2回目ジベ処理前まで)	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	14日前まで 3回以内	200 $\frac{g}{L}$	○ハウス谷間部の果房は6月上旬までかきかけを行う。 ○カイガラムシ類の発生が見られる場合はアフロードフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。ただし、散布が遅くなると果粉溶脱が懸念されるので、散布時期は小豆粒大までとする。 ○花かき取り作業軽減のため、ロイヤルカMG700倍またはシンクヨーセオ1,000倍を加用散布する。 ○コロマイト水和剤は果粉溶脱が懸念されるため、遅れないで散布する。また、ダニ剤はこのタイミングで必ず散布する。 加温ハウスは過湿により、灰色かび病が発生しやすい。落花直後の防除以降、天候不順等により灰色かび病の発生が懸念される場合にはインダーフロアブル8,000倍(30日前/3回以内)を散布する。散布時期によっては果粉溶脱が懸念されるため、スプレー噴口を使用し、散布量にも注意する。
		フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、コガネムシ類、コナカイガラムシ類、カメムシ類	ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで 3回以内		
		ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	7日前まで 2回以内		

令和7年度 J A山形おきたま デラウェア施設栽培 病 害 虫 防 除 基 準 ② ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100ℓ)	収穫前使用時期 総 使 用 回 数	散布量(10a)	注 意 事 項
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！★ 飛 散 に も 十 分 注 意 ！ ★						
／	着 色 期 前 布 特 別 散 布	灰色かび病、褐斑病、うどんこ病、黒とう病、晩腐病、すす点病	オンリーワンフロアブル 2, 000倍(50cc)	前日まで 3回以内	100～ 150ℓ	○スラン噴口を使用し果粉溶脱に注意する。 ○モンキクロメイガが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。棚下散布は、果粉溶脱が懸念されるので、スラン噴口を使用する。 ○晩腐病の発病果は見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
		アザミウマ類、ハダニ類、フタデンヒメヨコバイ、コガネムシ類	アーデントフロアブル 2, 000倍(50cc)	前日まで 4回以内		
／	着 色 期 前 布 特 別 散 布	ハダニ類、ブドウヒメハダニ	ダニコングフロアブル 2, 000倍(50cc)	前日まで 1回	100～ 150ℓ	○ハダニが多発すると、種枝の登熟が劣ったり、貯蔵養分蓄積に悪影響がでるので、ハダニの発生が心配される場合は、この回の防除を確実に行う。散布においては果粉溶脱に注意する。
⑤ ／	収 穫 後	べと病	ICボルドー66D	—	300ℓ	○モンキクロメイガが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から加用する。 ○ハダニ類、ブドウサビダニの発生が見られる場合には、ダニトロンフロアブル2,000倍(30日前/1回)を単用で散布する。 ○被覆したままの状態で、棚面の上下から十分量を散布し、枝幹害虫防除のため、主幹にも薬液がしっかりかかるようにする。また、高温時期の散布は薬害の恐れがあるため、時期をずらして散布する。 ○収穫後、降雨が多い場合は、8月下旬～9月上旬にICボルドー66D(－/－)50倍を追加散布する。
		さび病	50倍(2kg)	—		
⑥ ／	休 眠 期	ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、フタデンヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫、クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40 1, 000倍(100g)	90日前まで 2回以内	200ℓ	○房の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○スミチオン水和剤40、トラサイトA乳剤、カッサイトSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。
		展着剤	アプローチBI 1, 000倍(100cc)	—		
		ブドウトラカミキリ	トラサイドA乳剤 300倍(330cc)	発芽前(休眠期) 2回以内		
【注意】デラウェアに使用できないか、使用に必要な農薬						
ぶどうで使用ができなくなった農薬→ (ぶどうの登録削除)		ジェイエース水溶剤(オルトランを含む農薬)		近年、登録が変更された農薬→		コテツフロアブル(収穫前日数14日前→60日前)、 ダニトロンフロアブル(収穫前日数14日前→30日前)
デラウェアで使用できない農薬→ (大粒ぶどうのみの登録)		ダイアジノン水和剤34、パダンSG水溶剤、バイスロイドEW、アディオフロアブル、ピラニカ水和剤、カンタスドライフロアブル、ナリアWDG ※パダンSG水溶剤については、現時点での登録内容となっているため、使用の際は登録内容を十分に確認してから使用する。				
着色障害防止に肥料用硫酸マンガ				CX-10の使用		
使用方法及び時期		○ 第2回ジベレリン処理時に混用の場合 硫酸マンガ 14.5cc / ジベレリン液2ℓ ○ 満開20日後の棚面散布の場合 硫酸マンガ 365cc / 水 100ℓ		○休眠打破、萌芽促進、発芽率向上(発芽揃い)に効果がみられる。 ○処理時期は、例年11月中下旬以降。積雪により処理できなかった場合でも水揚げ前までに処理すると、発芽を揃える効果はある。(生育促進効果は劣る) ○処理にあたっては、種枝(芽、葉柄痕、節間)にたっぷり散布する。再処理や重複散布はしない。 ○倍数 20倍 ○散布量の目安： 150ℓ/10a ○展着剤加用 ハイテンパワー 10,000倍		

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま デラウエア露地栽培 病 害 虫 防 除 基 準 ① ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量(10a)	注 意 事 項
① ／	休 眠 期	展着剤 晩腐病 黒とう病 ブドウトラカミキリ	アプローチBI 1,000倍(100cc) フリントフロアブル25 1,000倍(100cc) トラサイドA乳剤 300倍(330cc)	— 休眠期 1回 休眠期 2回以内	200 ^{リットル}	○カイガラムシ類やカスミカメシ類が見られる園では、粗皮削りを必須作業とし、休眠期防除前までに終わらせる。 ○前年の房の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○周囲に訪花昆虫の巣箱がある場合には秋処理とする。
コウモリカ・(キクイムシ)対策→粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃し、見つけ次第捕殺する。						
② ／	休 眠 期 (前回散布 の7～10日後)	展着剤 ハダニ類、ブドウ ハモグリダニ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) クムラス 300倍(330g)	— 休眠期 —	200 ^{リットル}	○ハダニ・ハモグリダニの多い園では必ず散布する。 ○コウモリカ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にガットサイトS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カミキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロビンツド(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2～10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
枝かけ具の取付け(晩腐病発生の多い園は100%実施)→休眠期～5葉期まではかけ終わる事。風等でずれた場合は随時手直しをする。						
③ ／	発 芽 直 後	展着剤 フタテンヒメヨコバイ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	— 21日前まで 2回以内	200 ^{リットル}	○カスミカメシ類に対する効果が期待される。結果母枝基部の綿芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○周囲にヨモギが自生している場合は、カスミカメシ類の繁殖場所となるので除草を徹底する。
④ ／	展 葉 5 ～ 7 枚	展着剤 べと病、黒とう病、 晩腐病、褐斑病 アザミウマ類、フタ テンヒメヨコバイ、カ イガラムシ類、ツマ グロアオカスミカメ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) ペンコゼブフロアブル 1,000倍(100cc) モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	— 45日前まで 2回以内 14日前まで 3回以内	200 ^{リットル}	○ブドウトラカミ対策として、せん定枝は5月下旬までに処分する。 「デラウエア 種子混入防止」 アグレプト液剤/ストマイ液剤20 使用方法 希釈倍数 1,000倍 使用回数 1回 満開予定日の14日前～満開期 花房浸漬 (第1回目ジベレリン処理と併用) フリーデラや例年種子混入がみられる園地では、第1回目GA液に必ず混用する。
⑤ ／	開 花 直 前 (第1回ジベ処理後)	べと病、さび病、晩 腐病 ハダニ類	ICボルドー66D 50倍(2kg) コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	— 7日前まで 2回以内	200 ^{リットル}	「ジベレリンを効かせる管理」 高温乾燥下ではジベレリンの吸収が劣るので、展葉期から定期的にかん水するとともに極端に乾燥している場合は、ジベ処理当日にかん水をする。処理できない場合は棚面散水を実施し、湿度確保に努める。 ○カイガラムシ類の発生が見られる園は、アプロートフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。果粉溶脱に注意する。

令和7年度 J A山形おきたま デラウエア露地栽培 病 害 虫 防 除 基 準 ② ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病虫害	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量(10a)	注 意 事 項
第 2 回 ジベ処理 前後		晩腐病対策のためパラソルかけ100%実施				
		1.かさかけと結果母枝への枝かけ具の併用は更に効果が高い。 2.かさかけは雨漏りを防ぐため果軸に密着するよう丁寧に。 3.かさかけが遅れると効果が劣る。 4.かさかけは6月中旬まで終了する。				
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛 散 に も 十 分 注 意 ！ ★						
⑥ ／	落花直後～ (花かすが残っている時期で2回目ジベ処理前まで)	灰色かび病、晩腐病、褐斑病、黒とう病、さび病、すす点病、うどんこ病 べと病 アザミウマ類、ハダニ類、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類	オンリーワンフロアブル 2, 000倍(50cc) ベトファイター顆粒水和剤 3, 000倍(33g) アーデントフロアブル 2, 000倍(50cc)	前日まで 3回以内 30日前まで 3回以内 前日まで 4回以内	200 ^{リットル}	べと病防除対策 ○発生が懸念される場合は、天気予報等に注意し予防防除を徹底する。 ○葉裏の気孔からの侵入を防ぐ目的で十分に散布する。 ○同一成分の薬剤の連用は避ける。 ○降雨が続く場合は、エトフィンフロアブル1,000倍(7日前/4回以内)を追加散布する。 ○モンキローメイガが見られる園地では、サムコフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。棚下散布は、果粉溶脱が懸念されるので、スズラン噴口を使用する。
⑦ ／	7 月 上 旬	べと病、さび病	棚上散布 ICボルドー66D 50倍(2kg)	—	250 ^{リットル}	○散布時期が遅れないよう、適期防除に努める。 ○ハダニ類の発生がみられる園地では、ダニコグフロアブル2,000倍(前日/1回)を単用散布する。
⑧ ／	7 月 中 旬	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3, 000倍(33g)	14日前まで 3回以内	150 ^{リットル}	○果粉溶脱の恐れがあるので、倍数を厳守し十分攪拌後、重複しないようスズラン噴口等を使用し散布する。 ○フタテンヒメヨコバイの発生が多い園地は、ダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○晩腐病の発病果は見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
⑨ ／	7 月 下 旬	べと病、さび病	棚上散布 ICボルドー66D 50倍(2kg)	—	250 ^{リットル}	○冷蔵庫で貯蔵する園地では、灰色かび病対策として、収穫前にオンリーワンフロアブル 2,000倍(前日/3回以内)を果粉溶脱に注意し単用散布する。
⑩ ／	収 穫 直 後	べと病、さび病 ブドウトラカミキリ、コガネムシ類成虫、ブドウスカシバ、クワコナカイガラムシ、フタテンヒメヨコバイ	ICボルドー66D 50倍(2kg) スミチオン水和剤40 1, 000倍(100g)	— 90日前まで 2回以内	300 ^{リットル}	○モンキローメイガが見られる園地では、サムコフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から加用する。 ○散布量を増やし、棚面上下から十分散布する。 ○スミチオン水和剤40、トラサイトA乳剤、カットサイトSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。 ○スカシバ等の枝幹害虫対策は、薬液が主幹に十分かかるようにする。
使用方法 及び 時期	着色障害防止に肥料用硫酸マンガンを第2回ジベ処理液に混用の場合 硫酸マンガ 14.5cc / ジベ液2 ^{リットル} 満開20日後の棚面散布の場合 硫酸マンガ 365cc / 水 100 ^{リットル}				ブドウサビダニ被害の特徴 ○葉の表面の葉脈付近に生息し、虫がネ等で確認できない。 ○先端の若葉よりも成葉に被害が多い。 ○葉脈にそって黒褐色になり、被害が進行すると葉全体が変色し葉緑から枯込む。	

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま 大粒種（施設高尾・ヒ・オ・ネ・安芸Queen等）病害虫防除基準 ① 大粒ぶどう振興部会

散布月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注意事項
ブドウトラカミキリ防除は落葉後の秋冬期防除の効果が高い。散布しなかった園地は、クムラス散布前にトラサイドA乳剤300倍（休眠期/2回以内）を散布する。 クビアカスカシバ・コウモリガ・ブドウスカシバ・キクイムシの被害が増えている。粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃するなどの耕種的防除を行うとともに、見つけ次第捕殺する。						
① ／	休 眠 期	展着剤	ハイトンパワー 10,000倍(10cc)	－	200%	○晩腐病対策として、発芽後に被覆する園地では、クムラス散布前にフントフロアブル25 1,000倍（休眠期/1回）を散布する。 ○春季にトラサイドA乳剤を散布した場合はクムラスと7～10日間、間隔をあけて散布する。 ○ハダニ・ハモグリガニの多い園地では必ず散布する。 ○コウモリガ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にガッツサイトS1.5倍液（21日前/2回以内）を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カキリムシ類（枝幹害虫）対策として、加害（食入孔）がみられる場合はロビンフッド（前日/5回以内）を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2～10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
		ハダニ類、ブドウハモグリダニ	クムラス 300倍(330g)	休眠期 －		
／	特 別 散 布 (発 芽 直 後)	展着剤	ハイトンパワー 10,000倍(10cc)	－	200%	○カシカメシ類に対する効果も期待され、カシカメシの被害が多い園地では必ず散布する。結果母枝基部の綿芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○周囲にヨモギが自生している場合は、カシカメシ類の繁殖場所となるので除草を徹底する。 ○黒とう病の発生が懸念される場合は、展葉初期にテランフロアブル1,000倍（落葉期まで、但し、収穫75日前まで/2回以内）を散布する。
		フタテンヒメヨコバイ	サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	21日前まで 2回以内		
② ／	展 葉 期 5 ～ 7 枚	展着剤	ハイトンパワー 10,000倍(10cc)	－	200%	○前年にチャノキアザミウマの被害が見られた場合は、マイトコーネフロアブルに代えてコテツフロアブル2,000倍（60日前/2回）を混用散布する。 ○無種子化処理が必要な品種は、満開予定日の14日前から開花始期にアクレフト液剤またはストイ液剤20 1,000倍を散布する。処理が遅れると種子混入のリスクが高まるため、生育の早い新梢で展葉9枚頃を目安に実施する。また、かけムラがないようにしっかり散布する。 ○満開時の散布は避ける。果実に発生したサビは、実割れの原因になるので注意する。 ○開花期前後は、灰色かび病にかかりやすい時期なので、ハウス内が多湿にならないよう換気を徹底する。 ○スイッチ顆粒水和剤は桜桃の葉に薬害を生じるので、近隣に桜桃がある場合はスイッチ顆粒水和剤に代えてゲッター水和剤1,500倍（45日前/1回）を使用する。 ○頻繁にうどんこ病が発生する園地では、インダーフロアブル8,000倍（30日前/3回以内）を散布する。 【注意】 収穫期間（収穫後から次の収穫まで）をとおしてトップジンM剤（ゲッター水和剤）とベンレート剤（ベンレート水和剤）はいずれか一方のみの使用とする。 ○ハダシSG水溶剤については、現時点での登録内容となっているため、使用の際は登録内容を十分に確認してから使用する。
		べと病、黒とう病、晩腐病、うどんこ病、灰色かび病	テーク水和剤 1,000倍(100g)	45日前まで 2回以内		
		アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカシカメ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	14日前まで 3回以内		
		ハダニ類 ブドウサビダニ	マイトコーネフロアブル 1,000倍(100cc)	21日前まで 1回		
③ ／	【灰かび重点防除】 開 花 直 前 6 月 上 旬	展着剤	ハイトンパワー 10,000倍(10cc)	－	200%	【クビアカスカシバ対策】 ○成虫の発生時期となるので、飛来防止のため防風ネットで施設全体を囲う。 ○最重要防除時期は6月～8月上旬。効果のある薬剤を定期的に散布する。 ○幼虫の枝幹部への食入時（樹皮を食害時）に効果がでるように枝幹部に十分かかるように散布する。 ○被害が多い園地では、前回散布2週間後にハダシSG水溶剤1,500倍（21日前/5回以内）またはフェニックスフロアブル4,000倍（14日前/2回以内）を枝幹にしっかり散布する。 ○ハダシSG水溶剤は大粒ぶどうのみの登録であるため、テラウエア等への飛散に注意する。 ○主幹の地際周りを除草するとともに、樹上の食入箇所を定期的にチェックし捕殺する。また、食入孔の虫糞を取り除き、ロビンフッド（前日/5回以内）のノズルを差し込み噴射する。さらに、一度食入した箇所を再度加害する傾向があるので、目印を付けて確認するようにする。
		灰色かび病、晩腐病	スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g)	30日前まで 2回以内		
		チャノキアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、スカシバ類	ハダシSG水溶剤 1,500倍(66g)	21日前まで 5回以内		
④ ／	【灰かび重点防除】 落 花 直 後 【アザミウマ類重点防除】	展着剤	ハイトンパワー 10,000倍(10cc)	－	200%	○カイガラムシ類の発生が見られる場合はアブロードフロアブル1,000倍（30日前/2回以内）を単用散布する。ただし、散布が遅くなると果粉溶脱が懸念されるので、散布時期は小豆粒大までとする。 ○例年すす点病が発生する園地では、房の上下からしっかり散布する。 ○べと病の発生が懸念される場合は、ベトファイター顆粒水和剤3,000倍（30日前/3回以内）を散布する。 ○降雨が続く場合は、エトフィンフロアブル1,000倍（7日前/4回以内）を追加散布する。
		晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 3回以内		
		ケムシ類、コガネムシ類、カメムシ類、チャノキアザミウマ、クビアカスカシバ、ハマキムシ類	テッパン液剤 2,000倍(50cc)	前日まで 2回以内		
		ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	7日前まで 2回以内		

令和7年度 JA山形おきたま 大粒種（施設高尾・ピオーネ・安芸女王等）病害虫防除基準 ② 大粒ぶどう振興部会

散布月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注意事項
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛散にも十分注意！ ★						
⑤ ／	7月上旬 【アザミウマ類重点防除】	灰色かび病、黒とう病、さび病、褐斑病、うどんこ病 チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、カメムシ類、ブドウトラカミキリ、コガネムシ類、コナカイガラムシ類 ハダニ類、ブドウヒメハダニ	パレード15フロアブル 2,000倍(50cc) ダントツ水溶剤 2,000倍(50g) ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	7日前まで 2回以内 前日まで 3回以内 前日まで 1回	200%	○モンキクロメイガ、ヒメアサカシバが見られる圃地では、サムコフロアブル10,500倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。 ○その後の気温経過により灰色かび病の発生が見られる場合には、ストロベードライフロアブル3,000倍(14日前/3回以内)を散布する。散布時期によっては果粉溶脱が懸念されるため、スズラン噴口を使用し、散布量にも注意する。
⑥ ／	7月中下旬	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病 アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、ハダニ類、コガネムシ類	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g) アーデントフロアブル 2,000倍(50cc)	14日前まで 3回以内 前日まで 4回以内	150%	
／	特別散布 8月中旬～8月下旬	晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 3回以内	150%	○チャノキイロアザミウマやフタテンヒメヨコバイの発生が見られる場合はダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を加用散布する。 ○裂果・腐敗果等は、見つけ次第除去する。
⑦ ／	収穫直後	べと病、さび病 ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、コガネムシ類成虫、フタテンヒメヨコバイ、クワコナカイガラムシ	ICボルドー66D 50倍(2kg) スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	－ 21日前まで 2回以内	300%	○ハダニ類、ブドウサビダニの発生が見られる場合には、ダニコフロアブル2,000倍(30日前/1回)を散布する。(サビダニは葉表にもかかるように散布する。) ○副梢に結実した果房は早期に除去する。 ○収穫後、遅れないように棚面の上下から十分量を散布し、枝幹害虫防除のため、主幹にも薬液がしっかりとかかるようにする。
⑧ ／	休眠期	展着剤 ブドウトラカミキリ	アプローチBI 1,000倍(100cc) トラサイドA乳剤 300倍(330cc)	－ 休眠期 2回以内	200%	○晩腐病、黒とう病等防除のため、軸の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○スミチオン水和剤40、トラサイドA乳剤、ガットサイドSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。

フラスター液剤の使用法 ※大粒ぶどうのみ抜粋

品種名		使用目的	使用時期	倍数	散布量ℓ/10a	総使用回数
巨峰	露地	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1,000	300	2回以内
	施設					
巨峰系4倍体品種 (巨峰、ピオーネを除く)				500～800	100～150	
2倍体米国系品種						
3倍体品種 (ナガノバールを除く)						
2倍体欧州系品種 (シャインマスカットを除く)				1,000～2,000		

品種名		使用目的	使用時期	倍数	散布量ℓ/10a	総使用回数
ナガノバール	着粒増加	新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	500～800	100～150	2回以内
	新梢伸長抑制		満開10～20日後 但し、収穫60日前まで	500	150	
ピオーネ	着粒増加	新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	500～800	100～150	
	新梢伸長抑制		満開10～20日後 但し、収穫60日前まで	500	150	
シャインマスカット	着粒増加	新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1,000～2,000	100～150	
				満開10～20日後 但し、収穫60日前まで	500	
	新梢伸長抑制	満開10～20日後 但し、収穫60日前まで	1,000	300		
			1,000	300		

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま 大粒種（施設シャインマスカット等晩生種） 病害虫防除基準 ① 大粒ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注 意 事 項
ブドウトラカミキリ防除は落葉後の秋冬期防除の効果が高い。散布しなかった園地は、クムラス布前にトラサイドA乳剤300倍（休眠期/2回以内）を散布する。						
クビアカスカシバ・コウモリガ・ブドウスカシバ・キクイムシの被害が増えている。粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃するなどの耕種的防除を行なうとともに見つけ次第捕殺する。						
① ／	休 眠 期	展着剤 ハダニ類、ブドウハモグリダニ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) クムラス 300倍(330g)	－ 休眠期 －	200 ^{g/L}	○晩腐病対策として、発芽後に被覆する園地では、クムラス散布前にフリットフロアブル25 1,000倍(休眠期/1回)を散布する。 ○春季にトラサイドA乳剤を散布した場合はクムラスと7～10日間、間隔をあける。 ○ハダニ・ハモグリダニの多い園地では必ず散布する。 ○コウモリガ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にガッツサイドS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロビンフッド(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2～10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
／	特 別 散 布 (発 芽 直 後)	展着剤 フタテンヒメヨコバイ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	－ 21日前まで 2回以内	200 ^{g/L}	○カスガムシ類に対する効果も期待され、カスガムシの被害が多い園地では必ず散布する。結果母枝基部の綿芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○周囲にヨモギが自生している場合は、カスガムシ類の繁殖の原因になるので除草を徹底する。 ○黒とう病の発生が懸念される場合は、展葉初期にデランフロアブル1,000倍(落弁期まで、但し、収穫75日前まで/2回以内)を散布する。
② ／	展 葉 期 5 ～ 7 枚	展着剤 べと病、黒とう病、晩腐病、うどんこ病、灰色かび病 アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカスミカメ ハダニ類 ブドウサビダニ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) テーク水和剤 1,000倍(100g) モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g) マイトコーネフロアブル 1,000倍(100cc)	－ 45日前まで 2回以内 14日前まで 3回以内 21日前まで 1回	200 ^{g/L}	○前年にチャノキイロアザミウマの被害が見られた場合は、マイトコーネフロアブルに代えてコテツフロアブル2,000倍(60日前/2回)を混用散布する。 ○シャインマスカットは無種子化処理が必要な品種であるため、満開予定日の14日前から開花始期にアグレット液剤またはストマイ液剤20 1,000倍を散布する。処理が遅れると種子混入のリスクが高まるため、生育の早い新梢で展葉9枚頃を目安に実施する。また、かけムラがないようにしっかりと散布する。
③ ／	【灰かび重点防除】 開 花 直 前 6 月 上 旬	展着剤 灰色かび病、晩腐病 チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、スカシバ類	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g) バダンSG水溶剤 1,500倍(66g)	－ 30日前まで 2回以内 21日前まで 5回以内	200 ^{g/L}	○満開時の散布は避ける。果実に発生した場合は実割れの原因になるので注意する。 ○開花期前後は、灰色かび病にかかりやすい時期なので、ハウス内が多湿にならないよう換気を徹底する。 ○スイッチ顆粒水和剤は桜桃の葉に薬害を生じるので、近隣に桜桃がある場合はスイッチ顆粒水和剤に代えてゲッター水和剤1,500倍(45日前/1回)を使用する。 ○頻繁にうどんこ病が発生する園地では、インダーフロアブル8,000倍(30日前/3回以内)を散布する。 ○クビアカスカシバ対策のため枝幹部にしっかりとかかるよう丁寧に散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおして、トップジンM剤(ゲッター水和剤)とベンレート剤(ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。 ○バダンSG水溶剤については、現時点での登録内容となっているため、使用の際は登録内容を十分に確認してから使用する。
④ ／	【灰かび重点防除】 落 花 直 後 (シャインマスカット第1 回目ジベ処理後) 【アザミウマ類重点防除】	展着剤 晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病 ケムシ類、コガネムシ類、カメムシ類、チャノキイロアザミウマ、クビアカスカシバ、ハマキムシ類 ハダニ類	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc) テッパン液剤 2,000倍(50cc) コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	－ 前日まで 3回以内 前日まで 2回以内 7日前まで 2回以内	200 ^{g/L}	○成虫の発生時期となるので、飛来防止のため防風ネットで施設全体を囲う。 ○最重要防除時期は6月～8月上旬。効果のある薬剤を定期的に散布する。 ○幼虫の枝幹部への食入時(樹皮を食害時)に効果ができるように枝幹部に十分かかるように散布する。 ○被害が多い園地では、前回散布2週間後にバダンSG水溶剤1,500倍(21日前/5回以内)またはフェニックスフロアブル4,000倍(14日前/2回以内)を枝幹部にしっかりと散布する。 ○バダンSG水溶剤は大粒ぶどうのみの登録であるため、デラウェア等への飛散に注意する。 ○主幹の地際周りを除草するとともに、樹上の食入箇所を定期的にチェックし捕殺する。また、食入孔の虫糞を取り除き、ロビンフッド(前日/5回以内)のノズルを差し込み噴射する。さらに、一度食入した箇所を再度加害する傾向があるので、目印を付けて確認するようにする。 ○落花直後の防除実施後、7月上旬の防除までの間隔が1週間以上空く場合は、ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(14日前/3回以内)を追加散布する。 ○カイガラムシ類の発生が見られる場合はアプロートフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。ただし、散布が遅くなると果粉溶脱が懸念されるので、散布時期は小豆粒大までとする。

令和7年度 J A山形おきたま 大粒種（施設シャインマスカット等晩生種） 病害虫防除基準 ② 大粒ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100ℓ)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注 意 事 項
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛 散 に も 十 分 注 意 ！ ★						
⑤ ／	7 月 上 旬 【アザミウマ類重点防除】	黒とう病、さび病、灰色かび病、 褐斑病、うどんこ病 チャノキイロアザミウマ、フタテン ヒメヨコバイ、カメムシ類、ブドウ トラカミキリ、コガネムシ類、コナカ イガラムシ類 ハダニ類、ブドウヒメハダニ	バレード15フロアブル 2, 000倍(50cc) ダントツ水溶剤 2, 000倍(50g) ダニコングフロアブル 2, 000倍(50cc)	7日前まで 2回以内 前日まで 3回以内 前日まで 1回	200ℓ	ダニ剤の有効な使用方法 ①同一成分の薬剤は連用しない。 ②支柱の部分等の初期発生を見逃さない。 ○モンククロメイガ、クビアスカシバが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。 【簡易雨よけ ベと病梅雨期防除の実施】 ○ベと病の発生が懸念される場合は、ヘトファイター顆粒水和剤3,000倍(30日前/3回以内)を散布する。 ○降雨が続く場合は、エトフィンフロアブル1,000倍(7日前/4回以内)を追加散布する。 【多湿条件下での病害対策】 梅雨期におけるハウス内の多湿条件での灰色かび病等の対策として、7月中旬にファンダスタ顆粒水和剤3,000倍(14日前/3回)を散布する。
⑥ ／	7 月 下 旬	晩腐病、黒とう病、さび病、灰色 かび病、うどんこ病、すす点病、 褐斑病 アザミウマ類、フタテンヒメヨコバ イ、ハダニ類、コガネムシ類	オンリーワンフロアブル 2, 000倍(50cc) アーデントフロアブル 2, 000倍(50cc)	前日まで 3回以内 前日まで 4回以内	200ℓ	
⑦ ／	8 月 中 旬 (袋かけ後)	黒とう病、べと病、褐斑病、晩腐 病、灰色かび病、さび病、うどんこ 病	ストロビードライフロアブル 3, 000倍(33g)	14日前まで 3回以内	200ℓ	○無袋でストロビードライフロアブル3,000倍の散布にあたっては、果粉溶脱の恐れがあるので、倍数を厳守し十分攪拌後、重複しないよう散布する。(スズラン噴口使用) ○チャノキイロアザミウマやフタテンヒメヨコバイの発生が見られる場合はダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を加用散布する。
／	特別散布 8 月 下 旬 (ロザリオビアンコ)	黒とう病、灰色かび病、うどんこ 病、褐斑病	オーシャインフロアブル 2, 000倍(50cc)	7日前まで 2回以内	150ℓ	○ロザリオビアンコ等、収穫が遅い品種のみ散布する。 ○果実汚染に注意し散布する。 ○裂果・腐敗果等は、見つけ次第除去する。
⑧ ／	収 穫 直 後	べと病、さび病 コガネムシ類成虫、ブドウトラカミ キリ、ブドウスカシバ、フタテンヒメ ヨコバイ、クワコナカイガラムシ	ICボルドー66D 50倍(2kg) スミチオン水和剤40 1, 000倍(100g)	－ 21日前まで 2回以内	300ℓ	○ハダニ類、ブドウサビダニの発生が見られる場合には、ダニトロンフロアブル2,000倍(30日前/1回)を散布する。(サビダニは葉表にもかかるように散布する。) ○副梢に結実した果房は早期に除去する。 ○収穫後、遅れないように棚面の上下から十分量を散布し、枝幹害虫防除のため、主幹にも薬液がしっかりとかかるようにする。
⑨ ／	休 眠 期	展着剤 ブドウトラカミキリ	アブローチBI 1, 000倍(100cc) トラサイドA乳剤 300倍(330cc)	－ 休眠期 2回以内	200ℓ	○晩腐病、黒とう病等防除のため、軸の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○スミチオン水和剤40、トラサイドA乳剤、カットサイドSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。

灰色かび病・べと病・すす点病・うどんこ病対策について

- 予防散布が基本であるので、生育初期～水回り期までの、薬量を多く散布できる期間が防除のポイントとなるので、かけむらのないように徹底して行う。
- 灰色かび病は、花穂や穂軸・葉・幼果・熟果に発病する。特に、開花期前後及び幼果期が防除のポイントとなる。(薬量多く)開花期前後のハウス内の湿度が高いと、突発的に発病することがあるので、適宜、換気を行いハウス内が過湿にならないようにする。
- べと病は開花期から幼果期にかけて、雨水によって葉・幼果等に感染するので、5月中下旬及び開花期以降10日間隔で定期的に防除する。
- すす点病は、5月上～中旬頃から分生子が風で飛散感染し、果粉を栄養源として増殖する。7月中旬から果粒での病斑が見られ二次伝染源となる。幼果期の通風・換気を十分行い落花後から7月中下旬までに、散布間隔があかないよう防除を行う。
- うどんこ病は、分生子が風で飛散感染し、開花期～幼果期に発生が見られる。とくに冷涼少雨条件下で多発する。発芽前以降～幼果期ころまで散布間隔があかないよう効果のある農薬を散布する。

CX-10(シアナミド10%)の使用方法

○休眠打破、萌芽促進、発芽率向上(発芽揃い)に効果が期待されるので、発芽の不揃いな品種には有効。

○処理時期は、デラウェアは11月中下旬頃～、シャインマスカットは11月末または12月上旬頃～、ロザリオビアンコは12月10日頃からが目安。但し、低温遭遇時間が少ない場合は、処理時期を遅らせる。処理が遅れても水揚げ前までに処理すると発芽を揃える効果がある。

○処理にあたっては、種枝(芽、葉柄痕、節間)にたつぷり散布し、再処理や重複散布を避ける。

使用倍数： 10倍(1回以内)～15倍(2回以内)または20倍(2回以内) 散布量の目安： 150ℓ/10a ※倍数および散布量は品種等により調整する。

○展着剤使用 ハイデンパワー10,000倍

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま りんご(ノボルト®-体系) 病 害 虫 防 除 基 準 ① りんご振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当り薬量)	収穫前使用回数	総使用回数	散布量(10a)	葉面散布肥料資材	注 意 事 項
① ／	発芽直前	—	水 (88ℓ)	※水88ℓにハーベストオイル2ℓ＋石灰硫黄合剤10ℓを希釈する。(合計100ℓ)			300ℓ	○薬剤散布前に粗皮削りを行い、枝幹部に十分 薬液がかかるよう丁寧に散布する。 ○リンゴハダニおよびナシカイガラムシの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○消雪の遅い地域では、発芽期から展葉期にハーベストオイル200倍(発芽後3週間まで/-)とベフラン液剤251,000倍(展葉期/6回以内※但し、開花期以降散布は3回以内)、タイアシン水和剤341,000倍(30日前/4回以内)混用して散布する。 【注意】 ベフラン液剤25は、令和7年10月登録失効予定のため、今回限りの使用とする。
		ハダニ類、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍 (2ℓ)	発芽前	—			
	腐らん病必須防除	越冬病害虫、腐らん病、カイガラムシ類、ハダニ類	石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)	発芽前	—			
② ／	展葉初期 (4月中旬) [花そう葉が2～3枚展葉した頃]	黒星病	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	400ℓ	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒星病の発生が多い場合は、トレノックスフロアブルに代えてICボルト®-412 30倍(-/-)を散布する。ただし、ハーベストオイル等マシン油乳剤の散布後は、2～3日以上経過してからICボルト®-412を散布する(マシン油乳剤の効果低下の防止)。
		斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、炭そ病、輪紋病	トレノックスフロアブル 500倍 (200cc)	30日前	5回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、リンゴワタムシ	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g)	前日	3回以内			
③ ／	展葉10日後	一次感染	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	400ℓ	○前年、黒星病の発生が多かった園地では、間隔があかないよう展葉10日後の防除を必ず実施する。 ○黒星病の発生が多い場合は、スライド顆粒水和剤に代えてICボルト®-412 30倍(-/-)を散布する。
		黒星病、モニリア病	スライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花前まで	2回以内			
		カイガラムシ類幼虫	アブロードフロアブル 1,500倍 (66cc)	30日前	2回以内			
④ ／	開花直前 (4月下旬)	モニリア病	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	400ℓ	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○モニリア病対策として、発病した葉や花、花そうは摘み取り、適切に処分する。
		赤星病、うどんこ病、褐斑病、黒星病、黒点病、モニリア病、斑点落葉病	カナメフロアブル 4,000倍 (25cc)	前日	3回以内			
		黒星病、赤星病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、炭そ病	ベンコゼブ水和剤 600倍 (166g)	30日前	3回以内			
⑤ ／	落花直後 中心花が7～8割落花 (5月上中旬)	ア病	ハマキムシ類、ケムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ	フェニックスフロアブル 5,000倍 (20cc)	前日	2回以内	500ℓ 果面保護 バイカルティ 1,000倍	○ウララDFは訪花昆虫に対する影響が少ない。 ○近年、リンゴワタムシの発生が増加傾向なので、散布ムラがないよう、樹幹全体に満遍なく散布する。 ○黒星病が多い園地では、落花10日後にアントラコール顆粒水和剤500倍(45日前/4回以内)を追加散布する。
		黒星病、赤星病、モニリア病、うどんこ病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、すす点病、すす斑病	アスパイア水和剤 500倍 (200g)	30日前	3回以内			
		アブラムシ類、リンゴワタムシ	ウララDF 2,000倍 (50g)	14日前	2回以内			
⑥ ／	5月中下旬	点防除	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、炭そ病、輪紋病	トレノックスフロアブル 500倍 (200cc)	30日前	5回以内	600ℓ 果面保護 バイカルティ 1,000倍	○キンモンハモグリガにも効果がある。 ○ハマキムシ類、シンクイムシ類対策として、コンフューザー-Rを10a当たり100～120本設置する。
		カメムシ類、シンクイムシ類、リンゴワタムシ	バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
		黒星病(二次感染)・斑点落葉病・輪紋病	アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g)	45日前	4回以内			
⑦ ／	6月上旬	シンクイムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ、ハマキムシ類、キンモンハモグリガ	アディオン水和剤 2,000倍 (50g)	14日前	2回以内	600ℓ 果面保護 バイカルティ 1,000倍	○余分な徒長枝は、防除の妨げになるので整理する。 ○黒星病対策として、発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。 【ヒメノケトリ防除】 園内をよく観察し、被害の兆候(樹幹からのフラス(虫糞と木屑の混ざったもの)の排出の有無)の早期発見に努め、被害を発見した場合は、フラスを取り除きヒメノケトリ(前日/5回以内)のノズルを排出孔に差し込み薬液がでるまで噴射する。	
		ハダニ類	ダニコングフロアブル 2,000倍 (50cc)	前日	1回			
		固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍 (100cc)	—	—			
⑧ ／	6月中旬	斑点落葉病・輪紋病重点防除	ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日	3回以内	600ℓ 果面保護 バイカルティ 1,000倍	○腐らん病の発生が見られる園では、摘果後からの感染防止のため、トップジンM水和剤1,500倍(前日/6回以内)を散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM水剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布剤は除く。 ○雨が続く場合でも、散布間隔があかないように晴れ間を狙って防除する。 ○カメムシ類の発生がみられる園では、ロディー水和剤1,000倍(前日/2回以内)を散布する。(ハマキムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、シンクイムシ類同時防除)	
		モミジクサハダニ、ナシカイガラムシ類、リンゴワタムシ、クワコナカイガラムシ類、クワコナカイガラムシ類、クワコナカイガラムシ類、クワコナカイガラムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	30日前	4回			

令和7年度 J A山形おきたま りんご(ノボルト-体系)病 害 虫 防 除 基 準 ② りんご振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収 穫 前 使 用 数	総 使 用 数	散布量 (10a)	葉面散布 肥料資材	注 意 事 項
⑨ ／	6月下旬	黒 星 病 (2 次 感 染)	固着性展着剤	アピオン-E	1,000倍 (100cc)	—	—	○十分攪拌後散布する。
			斑点落葉病、輪紋病、すす点病、すす斑病、炭そ病、褐斑病、黒点病、黒星病	オキシラン水和剤	500倍 (200g)	14日前	4回以内	
			アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日	3回以内	
⑩ ／	7月上旬	感 染)	固着性展着剤	アピオン-E	1,000倍 (100cc)	—	—	果面保護 バICALティ 1,000倍
			斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病、すす点病、すす斑病、黒点病、うどんこ病、腐らん病	ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日	3回以内	
⑪ ／	7月中旬	斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病	固着性展着剤	アピオン-E	1,000倍 (100cc)	—	—	果面保護 バICALティ 1,000倍
			斑点落葉病、輪紋病、すす点病、すす斑病、褐斑病、黒点病、黒星病、炭そ病	オキシンドー水和剤80	1,200倍 (83g)	14日前	4回以内	
			アブラムシ類、カメムシ類、キンモンホソガ、クワコナカイガラムシ、シンクイムシ類、ハマキムシ類、リンゴワタムシ	サイアノックス水和剤	1,000倍 (100g)	14日前	1回	
			リンゴハダニ、ナミハダニ、リンゴサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000倍 (50cc)	前日	1回	
⑫ ／	7月下旬	病 重 点 防 除	固着性展着剤	アピオン-E	1,000倍 (100cc)	—	—	果面保護 バICALティ 1,000倍
			斑点落葉病、輪紋病、すす点病、すす斑病、褐斑病、炭そ病、黒点病、黒星病	オキシラン水和剤	500倍 (200g)	14日前	4回以内	
			シンクイムシ類、キンモンホソガ、アブラムシ類、ハダニ類、カメムシ類	アーデントフロアブル	2,000倍 (50cc)	前日	3回以内	
⑬ ／	8月中旬		展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	○ <u>ダイパー、ヘフラン、ベルコートは同一成分(イミダジリジン)を含み、使用回数は8回以内(ただし、開花期以降散布は3回以内)とする。</u>
			斑点落葉病、黒星病、炭そ病、褐斑病、黒点病、輪紋病、すす点病、すす斑病	ダイパー水和剤	1,000倍 (100g)	前日	3回以内	
			アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、カメムシ類、ケムシ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日	3回以内	
			ハダニ類、リンゴサビダニ、キンモンホソガ	コロマイト乳剤	1,000倍 (100cc)	前日	1回	
⑭ ／	8月下旬		展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	○ナミハダニの発生が見られる場合はコテツフロアブル2,000倍(前日/2回以内)を加用するか、アカリタチ乳剤2,000倍(前日/—)を単用散布する。また、アカリタチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、 <u>展着剤は使用せず単用散布する。</u>
			斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、黒星病、すす点病・すす斑病	オーソサイド水和剤80	600倍 (166g)	前日	6回以内	
			ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、ケムシ類、ヨモギエダシヤク、ヒメボクトウ	エクシレルSE	5,000倍 (20cc)	前日	3回以内	
⑮ ／	晩生種 9月中旬 早生種 収穫後		展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	○高温が続くと予想される場合は、ストライド顆粒水和剤に代えてアリエッティC水和剤800倍(前日/3回)を散布する。 ○キンモンホソガの多い園地では、スカウトフロアブル 2,000倍(前日/5回以内)を散布する。 ○晩生種のみ: 9月中旬以降、天候不順が続く場合はストロイドフロアブル3,000倍(前日/3回以内)を散布する。
			斑点落葉病、すす点病、すす斑病、褐斑病、炭そ病、黒星病、黒点病	ストライド顆粒水和剤	1,500倍 (66g)	開花～ 収穫前日	3回以内	
⑯ ／	10/中下旬頃		展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	○今回の防除を実施できなかった場合は、収穫後に実施する。 ○ベルコート水和剤の開花期以降の総使用回数は3回以内とする。また、ヘフラン液剤25、ベルコート、ダイパーは同一成分(イミダジリジン)を含むため、開花期以降は合計で3回以内の使用にとどめる。 ○野鼠対策として根雪前にフジフン粒剤1樹当たり200gを、樹冠下半径50cmの範囲の土壌と均一に混和する。(使用回数2回以内) 【黒星病越冬伝染源対策】被害落葉は翌年の一次伝染源になるため、以下の方法で菌密度低下を図る。 (1)被害落葉を収集し、適切に処分する。(プロア-等を利用すると効率的に収集することができる。) (2)落葉後から展葉期にかけて、園内の土壌表面に堆肥(1～2t/10a)を散布し(堆肥マルチ)、被害落葉を被覆する。
			黒星病	ベルコート水和剤	1,500倍 (66g)	前日	6回以内 (但し、開花期以降散布は3回以内)	

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま りんご(ボルドー体系) 病 害 虫 防 除 基 準 ①

りんご振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当たり薬量)	収穫前使用回数	使用回数	散布量(10a)	葉面散布 肥料資材	注 意 事 項
① ／	発芽直前	—	水 (88%)	※水88ℓにハーベストオイル2ℓ+石灰硫黄合剤10ℓを希釈する。(合計100ℓ)	—	—	—	○薬剤散布前に粗皮削りを行い、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。 ○リンゴハダニおよびナシカルカイガラムシの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○消雪の遅い地帯では、発芽期から展葉期にハーベストオイル200倍(発芽後3週間まで/-)とベフラン液剤25,1,000倍(展葉期/6回以内※但し、開花期以降散布は3回以内)、ダイアジノン水和剤34,1,000倍(30日前/4回以内)混用して散布する。 【注意】 ベフラン液剤25は、令和7年10月登録失効予定のため、今回限り(発芽期から展葉期)の使用とする。
		ハダニ類、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍 (2%)	発芽前	—	300%		
	腐らん病必須防除	越冬病害虫、腐らん病、カイガラムシ類、ハダニ類	石灰硫黄合剤 10倍 (10%)	発芽前	—			
② ／	展葉初期 (4月中旬) [花そう葉が2~3枚 展葉した頃]	黒 星 病 (ハ ダ ニ)	展着剤 斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、炭そ病、輪紋病 アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、リンゴワタムシ	ハイトンパワー 10,000倍 (10cc) トレノックスフロアブル 500倍 (200cc) モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g)	— 30日前 前日	— 5回以内 3回以内	400 リットル	○防花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒星病の発生が多い場合は、トレックスフロアブルに代えてICボルドー412 30倍(-/-)を散布する。ただし、ハーベストオイル等マシン油乳剤の散布後は、2~3日以上経過してからICボルドー412を散布する(マシン油乳剤の効果低下の防止)。
③ ／	展葉10日後	一 次 感 染	展着剤 黒星病、モニリア病 カイガラムシ類幼虫	ハイトンパワー 10,000倍 (10cc) ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g) アブロードフロアブル 1,500倍 (66cc)	— 開花前まで 30日前	— 2回以内 2回以内	400 リットル	○前年、黒星病の発生が多かった園地では、間隔があかないよう展葉10日後の防除を必ず実施する。 ○黒星病の発生が多い場合は、ストライド顆粒水和剤に代えてICボルドー412 30倍(-/-)を散布する。
④ ／	開花直前 (4月下旬)	モ ニ リ	展着剤 赤星病、うどんこ病、褐斑病、黒星病、黒点病、モニリア病、斑点落葉病 黒星病、赤星病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、炭そ病 ハマキムシ類、ケムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ	ハイトンパワー 10,000倍 (10cc) カナメフロアブル 4,000倍 (25cc) ペンコゼブ水和剤 600倍 (166g) フェニックスフロアブル 5,000倍 (20cc)	— 前日 30日前 前日	— 3回以内 3回以内 2回以内	400 リットル	○防花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○モニリア病対策として、発病した葉や花、花そうは摘み取り、適切に処分する。
⑤ ／	落花直後 中心花が7~8割落花 (5月上中旬)	ア 病 重	黒星病、赤星病、モニリア病、うどんこ病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、すす点病、すす斑病 アブラムシ類、リンゴワタムシ	アスパイア水和剤 500倍 (200g) ウララDF 2,000倍 (50g)	30日前 14日前	3回以内 2回以内	500 リットル 果面保護 ハイカルティ 1,000倍	○ウララDFは防花昆虫に対する影響が少ない。 ○近年、リンゴワタムシの発生が増加傾向なので、散布ムラがないよう、樹幹全体に満遍なく散布する。 ○黒星病が多い園地では、落花10日後にアントラコール顆粒水和剤500倍(45日前/4回以内)を追加散布する。
⑥ ／	5月中下旬	点 防 除	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、炭そ病、輪紋病 カメムシ類、シンクイムシ類、リンゴワタムシ、キンモンホソガ	トレノックスフロアブル 500倍 (200cc) バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	30日前 前日	5回以内 3回以内	600 リットル 果面保護 ハイカルティ 1,000倍	○キンモンハモグリガにも効果がある。 ○ハマキムシ類、シンクイムシ類対策として、コンフューザー-Rを10a当たり100~120本設置する。
⑦ ／	6月上旬	黒 星 病 (二 次 感 染) 点 防 除	斑点落葉病、黒点病、褐斑病、黒星病、輪紋病、炭そ病、すす点病、すす斑病 シンクイムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ、ハマキムシ類、ギンモンハモグリガ ハダニ類	アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g) アディオン水和剤 2,000倍 (50g) ダニコングフロアブル 2,000倍 (50cc)	45日前 14日前 前日	4回以内 2回以内 1回	600 リットル 果面保護 ハイカルティ 1,000倍	○余分な徒長枝は、防除の妨げになるので整理する。 ○黒星病対策として、発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。 【ヒメカワ防除】 園内をよく観察し、被害の兆候(樹幹からのフラス(虫糞と木屑の混ざったもの)の排出の有無)の早期発見に努め、被害を発見した場合は、フラスを取り除きピエノフッド(前日/5回以内)のノズルを排出孔に差し込み薬液がでるまで噴射する。
⑧ ／	6月中旬	点 防 除 重 点 防 除	固着性展着剤 斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病、黒点病、すす点病、すす斑病、うどんこ病、腐らん病 モミジカサゴ、ナシモミジカサゴ、リンゴワタムシ、クワコナカイガラムシ幼虫、ハマキムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ	アビオン-E 1,000倍 (100cc) ナリアWDG 2,000倍 (50g) ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	— 前日 30日前	— 3回以内 4回	600 リットル 果面保護 ハイカルティ 1,000倍	○腐らん病の発生が見られる園地では、摘果痕からの感染防止のため、トップジンM水和剤1,500倍(前日/6回以内)を散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM水和剤とベンレート水和剤はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布剤は除く。 ○雨が続く場合でも、防除間隔があかないように晴れ間を狙って防除する。 ○カメムシ類の発生がみられる園地では、ロディー水和剤1,000倍(前日/2回以内)を散布する。(ハマキムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、シンクイムシ類同時防除)

令和7年度 J A山形おきたま りんご(ボルドー体系) 病 害 虫 防 除 基 準 ② りんご振興部会

月日	時期	対象病害虫		薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)		収 穫 前 使 用 日	総 使 用 回 数	散布量 (10a)	葉面散布 肥料資材	注 意 事 項
⑨ ／	6 月 下 旬	黒 星 病 (2次感染) ・ 斑 点 落 葉 病	斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—	—	600 リットル		○コロマイ乳剤は使用直前に混用する。 ○ナミハダニ防除の効果をも高めるため、防除の2～3日前に草刈りを行う。
			アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
			ハダニ類、リンゴサビダニ、キンモンホソガ	コロマイ乳剤	1,000倍 (100cc)	前日	1回			
⑩ ／	7 月 中 旬	斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病 重 点 防 除	斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—	—	600 リットル		○カメムシ類に対する効果も期待される。
			モモシンクイガ、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、ハマキムシ類、アブラムシ類、リンゴハダニ、ナミハダニ	テルスター水和剤	1,000倍 (100g)	前日	1回			
⑪ ／	8 月 上 旬 (8月5日頃)	展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	600 リットル		○早生種の収穫期が近いので、収穫前日数を守る。 ○ハダニ防除を徹底する。	
		斑点落葉病、輪紋病、すす斑病、すす点病、褐斑病、黒点病、黒星病、炭そ病	オキシラン水和剤	600倍 (166g)	14日前	4回以内				
		アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日	3回以内				
		ナミハダニ・リンゴハダニ	カネマイトフロアブル	1,000倍 (100cc)	7日前	1回				
⑫ ／	8 月 中 下 旬	展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	600 リットル		○ハダニ類の発生が見られる場合は、ダニゲッターフロアブル2,000倍(前日/1回)を単用散布する。	
		斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、黒星病、すす点病・すす斑病	オーソサイド水和剤80	600倍 (166g)	前日	6回以内				
		ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、ケムシ類、ヨモギエダシヤク、ヒメボクトウ	エクシレルSE	5,000倍 (20cc)	前日	3回以内				
⑬ ／	晩 生 種 9 月 中 旬 早生種収穫後	展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	600 リットル		○高温が続くと予想される場合は、ストライド顆粒水和剤に代えてアリエッティC水和剤800倍(前日/3回)を散布する。 ○キンモンホソガの多い園地では、スカウトフロアブル2,000倍(前日/5回以内)を散布する。 ○晩生種のみ:9月中旬以降、天候不順が続く場合はストロベリートライフロアブル3,000倍(前日/3回以内)を散布する。	
		斑点落葉病、すす点病、すす斑病、褐斑病、炭そ病、黒星病、黒点病	ストライド顆粒水和剤	1,500倍 (66g)	開花～ 収穫前日	3回以内				
⑭ ／	10/中下旬頃	展着剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	—	—	500 リットル		○今回の防除を実施できなかった場合は、収穫後に実施する。 ○ベルクート水和剤の開花期以降の総使用回数は3回以内とする。また、ペフラン液剤25、ベルクート、ダイハワーは同一成分(イミダクジン)を含むため、開花期以降は合計で3回以内の使用にとどめる。 ○野鼠対策として根雪前にフジワナ粒剤1樹当たり200gを、樹冠下半径50cmの範囲の土壌と均一に混和する。(使用回数2回以内) 【黒星病越冬伝染源対策】 被害落葉は翌年の一次伝染源になるため、以下の方法で菌密度低下を図る。 (1)被害落葉を収集し、適切に処分する。(フロー等を利用すると効率的に収集することができる。) (2)落葉後から展葉期にかけて、園内の土壌表面に堆肥(1～2t/10a)を散布し(堆肥マルチ)、被害落葉を被覆する。	
		黒星病	ベルクート水和剤	1,500倍 (66g)	前日	6回以内 (但し、開花期以降散布は3回以内)				

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま 西洋梨（ノボルト[®]-体系）病 害 虫 防 除 基 準 ①

西洋なし振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用 日数	総 使 用 回数	散布量 (10a)	一般資材	注 意 事 項
① ／	発芽直前	－ ハダニ類、カイガラムシ類 越冬病害虫、ハダニ類	水 (88%) ハーベストオイル 50倍(2%) ●石灰硫黄合剤 10倍(10%)	※水88%にハーベストオイル2%＋石灰硫黄合剤10%を希釈する。(合計100%) 発芽前	－ －	300%		○粗皮削りをしっかり行い、休眠期防除を実施する。 ○リンゴハダニの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○ハーベストオイルの希釈液に石灰硫黄合剤を10倍になるよう混用する。
② ／	開花前	展着剤 ハマキムシ類	ハイツェンパワー 10,000倍(10cc) フェニックスフロアブル 5,000倍(20cc)	－ 前日	－ 2回以内	300%		○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒斑細菌病がみられる場合には、本欄の薬剤に加えてICボルト [®] -412 30倍(～/～)を混用散布する。(その場合展着剤は不要)また、開花してからICボルト [®] -412がかかるとサビ果の発生の原因となるため、必ず開花前に散布する。 ○アブラムシ類の発生が早い園地では、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○例年ナシヒメジキイの被害が多い園地では、対策として4月20日までにナシヒメジキイ100本/10aを設置する。モシクイ [®] やハマキムシ類の被害も多い場合は、5月下旬にコンフューサーN200本/10aを設置する。(直射日光が当たる場所や、高温になりやすい金属支柱等への設置は避ける。)
③ ／	満開 10日後	展着剤 赤星病、黒星病 胴枯病、輪紋病、黒星病	ハイツェンパワー 10,000倍(10cc) オンリーワンフロアブル 4,000倍(25cc) ★ベンレート水和剤 2,000倍(50g)	－ 前日 前日	－ 3回以内 4回以内	450%	果面保護 ハワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシジン水和剤500倍(3日前/9回以内)を散布する。 ○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をととして、トップジンM剤(トップジンM水和剤、トップジンMベースト)とベンレート剤(キャブレート水和剤、ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。
④ ／	5月 下旬	胴枯病、輪紋病、黒星病 アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ	★ベンレート水和剤 2,000倍(50g) スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日 前日	4回以内 3回以内	450%	果面保護 ハワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシジン水和剤500倍(3日前/9回以内)を散布する。 ○この回及び次回防除には、サビ軽減のため展着剤を使用しない。 ○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。 ○ナシハダニ対策として、5月下旬以降、園地の草刈を徹底する。
【 6 月 上 旬 ～ 8 月 上 旬 】 は 輪 紋 病 重 点 防 除 期 間 降 雨 が 続 く 場 合 は 追 加 散 布 実 施								
⑤ ／	6月 月上旬	輪紋病、黒斑病、黒星病 アブラムシ類、シンクイムシ類 ハダニ類	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g) スカウトフロアブル 2,000倍(50cc) ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	3日前 前日 前日	9回以内 5回以内 1回	600%	果面保護 ハワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○殺菌剤は、確実に散布する。 ○ナシヒメジキイの被害枝(芯折れ)は、見つけしだいにはせん除し、適切に処分する。
⑥ ／	6月 月中旬	固着性展着剤 輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病 コナカイガラムシ類若齢幼虫、ハマキムシ類、アブラムシ類、ナシグンバイ、シンクイムシ類	アビオン-E 1,000倍(100cc) ナリアWDG 2,000倍(50g) ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	－ 前日 14日前	－ 3回以内 6回以内	600%	果面保護 ハワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	【胴枯病の時期別の防除対策】 《1～4月》剪定時の発病枝のせん除 ①3～5年枝の病斑は、削り取って★トップジンMベースト(3回以内)か●バツレート(3回以内)を塗布する。病斑が大きく、治療困難な発病枝はせん除する。 ②剪定後の切り口には必ず★トップジンMベースト(3回以内)か●バツレート(3回以内)を塗布する。 ③休眠期防除(石灰硫黄合剤)の実施 《5～7月 最重要》 ①枯死した枝や果(花)叢のせん除や、病斑の削り取りを実施し、塗布剤を処理する。病斑やせん除した枝等は適切に処分する。 ②有機銅剤などを間隔をあげずに定期的に散布する。 《8月～秋冬期》 ①発病程度の高い枝をせん除し、必ず塗布剤を処理する。 ②2～3年枝上の小黒点病斑を確認し、苗木や幼木であれば病斑を削り取り塗布剤を処理する。
⑦ ／	6月 月下旬	固着性展着剤 黒星病、輪紋病 アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、ハダニ類	アビオン-E 1,000倍(100cc) ●キャブレート水和剤 600倍(166g) テルスター水和剤 1,000倍(100g)	－ 7日前 前日	－ 4回以内 2回以内	600%	果面保護 ハワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○カラムシ注意
⑧ ／	7月 月上旬	固着性展着剤 黒星病、輪紋病、うどんこ病、心腐れ症(胴枯病菌) ハダニ類、ニセナシサビダニ	アビオン-E 1,000倍(100cc) ●スクレアフロアブル 2,000倍(50cc) ダニゲッターフロアブル 2,000倍(50cc)	－ 前日 前日	－ 3回以内 1回	600%	果面保護 ハワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○今後ハダニの発生が多くなるので、時期が遅れないよう散布する。(防除2～3日前に必ず草刈りを行なう)

令和7年度 J A山形おきたま 西洋梨（ノボルド-体系）病 害 虫 防 除 基 準 ②

西洋なし振興部会

月日	時期		対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用 日数	総 使 用 回 数	散布量 (10a)	一般資材	注 意 事 項
⑨ ／	7 月 中 旬	防 除 時 期 重 点	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600 ^{リットル}	果面保護 ハワースクマII または バイカルティ 1,000倍	【梅雨期の防除対策】 ・降雨が続く場合は、晴れ間を逃さず防除を実施する。 ・有機銅水和剤は散布後の積算降水量が100mmを越えると効果がなくなるため、次回の防除を前倒しで実施し、必要な場合はICボルドー412 30倍(—/—)等の殺菌剤を追加散布をする。 ・固着性展着剤アピオン-E1,000倍を必ず加用する。
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	3日前	9回以内			
			ハマキムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、コナカイガラムシ類若齢幼虫	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	6回以内			
⑩ ／	7 月 下 旬		固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600 ^{リットル}	果面保護 ハワースクマII または バイカルティ 1,000倍	カメムシ類対策 ○7月以降はカメムシの発生が多くなるので、定期的に被害の出やすい園地の周辺部や樹上をよく観察する。 ○ロディー水和剤1,000倍(前日/2回以内))を散布する。 ○シンクイムシの発生が多い園ではナンヒメコン50～100本/10aを追加設置する。
			輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
			アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、アブラムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑪ ／	8 月 上 旬		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	600 ^{リットル}		○胴枯病にも効果がある。
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	3日前	9回以内			
			アブラゼミ、シンクイムシ類、カメムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ類	アグロスリン水和剤 1,000倍(100g)	前日	3回以内			
			ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	前日	1回			
⑫ ／	8 月 中 旬		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	600 ^{リットル}		
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	3日前	9回以内			
			カイガラムシ類、アブラムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類	オリオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前	2回以内			
⑬ ／	8 月 下 旬		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	600 ^{リットル}		○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタチ乳剤2,000倍(前日/—)を単用散布する。また、アカリタチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	3日前	9回以内			
			アブラムシ類、シンクイムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	5回以内			
⑭ ／	晩生種 9 月 上 旬		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	600 ^{リットル}		
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	3日前	9回以内			
			アブラムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ、カメムシ類	バリアード顆粒水和剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑮ ／	9 月 中 旬		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	600 ^{リットル}		○胴枯病の枯死枝等は、徹底して取り除き適正に処分する。 ○例年、ナシヒメコンの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナシヒメコンの活動時間帯(18～22時頃)の気温が15℃以上の日が続く場合は、9月下旬にスカウトフロアブル2,000倍(前日/5回)を追加散布する。 【収穫後の黒斑細菌病対策】 ○黒斑細菌病がみられる園地では、収穫後に菌密度の低下を狙いICボルドー412 30倍(—/—)を散布する。
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	3日前	9回以内			
			ハマキムシ類、シンクイムシ類	エクシレルSE 2,500倍(40cc)	前日	3回以内			
⑯ ／	落葉後		固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	300 ^{リットル}		○胴枯病、腐らん病に対する効果も期待される。
			越冬病害虫	●石灰硫黄合剤 10倍(10%)	発芽前	—			

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 J A山形おきたま 西洋梨（有袋ホルド-体系）病虫害防除基準①

西洋なし振興部会

月日	時期	対象病虫害	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材	注 意 事 項
① ／	発芽直前	— ハダニ類、カイガラムシ類 越冬病虫害、ハダニ類	水 (88%) ハーベストオイル 50倍 (2%) ●石灰硫黄合剤 10倍(10%)	※水88%にハーベストオイル2%+石灰硫黄合剤10%を希釈する。(合計100%) 発芽前 発芽前	— —	300%		○粗皮削りをしっかり行い、休眠期防除を実施する。 ○リンゴハダニの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○ハーベストオイルの希釈液に石灰硫黄合剤を10倍になるよう混用する。
② ／	開花前	展着剤 ハマキムシ類	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) フェニックスフロアブル 5,000倍(20cc)	— 前日	— 2回以内	300%		○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒斑細菌病がみられる場合には、本欄の薬剤に加えてICホルド-412 30倍(一/一)を混用散布する。(その場合展着剤は不要)また、開花してからICホルド-412がかかることとサビ果の発生の原因となるため、必ず開花前に散布する。 ○アブラムシ類の発生が早い園地では、モスピラン顆粒水溶液2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○例年ナシヒメジキイの被害が多い園地では、対策として4月20日までにナシモン100本/10aを設置する。モシクイガやハマキムシ類の被害も多い場合は、5月下旬にコンフューサーN200本/10aを設置する。(直射日光が当たる場所や、高温になりやすい金属支柱等への設置は避ける。)
③ ／	満開 10日後	展着剤 赤星病、黒星病 胴枯病、輪紋病、黒星病	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) オンリーワンフロアブル 4,000倍(25cc) ★ベンレート水和剤 2,000倍(50g)	— 前日 前日	— 3回以内 4回以内	450%	果面保護 ハワークマII または バイカルティ 1,000倍	○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(3日前/9回以内)を散布する。 ○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおして、トップジンM剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(キャブレート水和剤、ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。
④ ／	5月 下旬	胴枯病、輪紋病、黒星病 アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシギジラミ	★ベンレート水和剤 2,000倍(50g) スタークル顆粒水溶液 2,000倍(50g)	前日 前日	4回以内 3回以内	450%	果面保護 ハワークマII または バイカルティ 1,000倍	○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(3日前/9回以内)を散布する。 ○この回及び次回防除には、サビ軽減のため展着剤を使用しない。 ○ナシハダニ対策として、5月下旬以降、園地の草刈を徹底する。 ○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。
【 6 月 上 旬 ～ 8 月 上 旬 】 は 輪 紋 病 重 点 防 除 期 間 降 雨 が 続 く 場 合 は 追 加 散 布 実 施								
⑤ ／	6月 月上旬	輪紋病、黒斑病、黒星病 アブラムシ類、シンクイムシ類 ハダニ類	●オキシジンドー水和剤80 1,200倍(83g) スカウトフロアブル 2,000倍(50cc) ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	3日前 前日 前日	9回以内 5回以内 1回	600%	果面保護 ハワークマII または バイカルティ 1,000倍	○殺菌剤は、確実に散布する。 ○ナシヒメジキイの被害枝(芯折れ)は、見つけしだいせん除し、適切に処分する。
⑥ ／	6月 中旬	固着性展着剤 輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、アブラムシ類、クワコナカイガラムシ	アピオン-E 1,000倍(100cc) ナリアWDG 2,000倍(50g) サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	— 前日 7日前 (有袋栽培)	— 3回以内 3回以内	600%	果面保護 ハワークマII または バイカルティ 1,000倍	①剪定後の切り口には必ず★トップジンMペースト(3回以内)か●ハッチレート(3回以内)を塗布する。 ③休眠期防除(石灰硫黄合剤)の実施 【5～7月 最重要】 ①枯死した枝や果(花)叢のせん除や、病斑の削り取りを実施し、塗布剤を処理する。病斑やせん除した枝等は適切に処分する。 ②有機銅剤などを間隔をあげずに定期的に散布する。 【8月～秋冬期】 ①発病程度の高い枝をせん除し、必ず塗布剤を処理する。 ②2～3年枝上の小黒点病斑を確認し、苗木や幼木であれば病斑を削り取り塗布剤を処理する。
⑦ ／	6月 下旬 袋かけ 終了	固着性展着剤 黒星病、輪紋病 アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、ハダニ類	アピオン-E 1,000倍(100cc) ●キャブレート水和剤 600倍(166g) テルスター水和剤 1,000倍(100g)	— 7日前 前日	— 4回以内 2回以内	600%	果面保護 ハワークマII または バイカルティ 1,000倍	○カラムシ注意 ○輪紋病・胴枯病の果実への感染を防ぐため、6月下旬までに袋かけを行う。

令和7年度 J A山形おきたま 西洋梨（有袋ボルドー体系）病 害 虫 防 除 基 準 ②

西洋なし振興部会

月日	時期		対象病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収穫前使用 日数	総 使 用 回 数	散布量 （10a）	一般資材	注 意 事 項
⑧ ／	7月 上旬	【 胸枯病重点 防除時期 】	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍（100cc）	—	—	600ℓ	果面保護 ハワースマII または バイカルティ 1,000倍 ※袋かけを終了 した場合は使用 しなくてもよい。	○降雨が多い場合は、オキシラン水和剤に代えてスクレアフロアブル2,000倍（前日/3回以内）を散布する。 ○今後ハダニの発生が多くなるので、時期が遅れないよう散布する。（防除2～3日前に必ず草刈りを行う）
			黒星病、黒斑細菌病、輪紋病、炭そ病、黒斑病	●オキシラン水和剤 500倍（200g）	3日前	9回以内			
			アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍（50g）	前日	3回以内			
			ハダニ類、ニセナシバダニ	ダニゲッターフロアブル 2,000倍（50cc）	前日	1回			
⑨ ／	7月 中旬	【 胸枯病重点 防除時期 】	輪紋病	●ICボルドー412 30倍（3.3kg）	—	—	600ℓ		○早生品種がある場合は、収穫前日数に注意して散布する。 カメムシ類対策 ○7月以降はカメムシの発生が多くなるので、定期的に被害の出やすい園地の周辺部や樹上をよく観察する。 ○ロティール水和剤1,000倍（前日/2回以内）を散布する。
			ハマキムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、コナカイガラムシ類若齢幼虫	ダイアジノン水和剤34 1,000倍（100g）	14日前	6回以内			
⑩ ／	7月 下旬	【 胸枯病重点 防除時期 】	輪紋病	●ICボルドー412 30倍（3.3kg）	—	—	600ℓ		
			ハマキムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、コナカイガラムシ類若齢幼虫	ダイアジノン水和剤34 1,000倍（100g）	14日前	6回以内			
⑪ ／	8月 月上旬	【 胸枯病重点 防除時期 】	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍（10cc）	—	—	600ℓ		○胸枯病にも効果がある。
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍（83g）	3日前	9回以内			
			ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍（50g）	前日	1回			
⑫ ／	8月 中下旬	【 胸枯病重点 防除時期 】	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍（10cc）	—	—	600ℓ		○早生種については、収穫前日数を厳守し散布する。 ○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍（前日/—）を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果が少ないため、1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。
			輪紋病	●オキシンドー水和剤80 1,200倍（83g）	3日前	9回以内			
			カメムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍（50g）	前日	3回以内			
⑬ ／	9月 月上旬	【 胸枯病重点 防除時期 】	輪紋病	●ICボルドー412 30倍（3.3kg）	—	—	600ℓ		○マルケリット・マリーア、オーロラ等の早生種の収穫が終了しない場合は、飛散しないように注意する。 ○胸枯病の枯死枝等は、徹底して取り除き適正に処分する。 ○例年、ナシヒメシクイの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナシヒメシクイの活動時間帯（18～22時頃）の気温が15℃以上の日が続く場合は、9月下旬にスカウトフロアブル2,000倍（前日/5回）を追加散布する。
			ハマキムシ類、シンクイムシ類、ケムシ類	サムコルフロアブル10 5,000倍（20cc）	前日	3回以内			
⑭ ／	落葉後	【 胸枯病重点 防除時期 】	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍（100cc）	—	—	300ℓ		○胸枯病、腐らん病に対する効果も期待される。
			越冬病害虫	●石灰硫黄合剤 10倍（10ℓ）	発芽前	—			

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。

令和7年度 JA山形おきたま西洋梨(コンフューザー体系)病 害 虫 防 除 基 準 ① 西洋なし振興部会

回数	時 期	対 象 病 害 虫	成 分 回 数	薬 剤 名 及 び 濃 度 (水 100 ㍓ 当 り 薬 量)	収 穫 前 使 用 日 数	総 使 用 回 数	散 布 量 1 0 a	一 般 資 材	注 意 事 項
1	発芽直前	—	—	水	—	(88㍓)	※水88㍓にハーベストオイル2㍓+石灰硫黄合剤10㍓を希釈する(合計100㍓)		○胴枯病が多いので、十分量を散布する。
		越冬病害虫・ハダニ類	—	石灰硫黄合剤	10倍	(10㍓)	発芽前	—	○剪定切り口及び傷口の癒合促進に塗布剤を用いる。
		ハダニ類・カイガラムシ類	1	ハーベストオイル	50倍	(2㍓)	発芽前	—	○散布が遅れたり、重複散布すると薬害の原因になるので、必ず発芽前に散布する。 ○粗皮下等での越冬ダニの密度が非常に高いので、粗皮削りを徹底し、薬液をタツプリかける。
2	開花前	黒斑細菌病	—	ICボルドー412	30 倍	(3.3kg)	—	—	○開花してからICボルドー412がかかるとサビ果の発生の原因となるため、必ず開花前に散布する。 ○ 春肥料(必要に応じ) ○ 芽かきの時期にアブラムシの発生が懸念される場合はモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○ 胴枯病発病枝等は、徹底し取り除き焼却する。 ○黒斑細菌病の発生が見られない場合は、ICボルドー412 30倍(—/—)に代えてトリフミン水和剤2,000倍(前日/3回)を混用散布する。(その場合は展着剤はマイリノー加用)
		ハマキムシ類	2	フェニックスフロアブル	4,000 倍	(25cc)	前日	2回	
	～4/20まで	【交信かく乱剤】 (性フェロモン剤) ナシヒメシクイ	—	ナシヒメコン	使用時期→成虫発生初期から終期 使用方法→ディスペンサーを対象作物の枝に巻きつけ設置する。			100 本	●フェロモン剤については、ナシヒメコンまたはコンフューザーNまたはRのいずれかを使用する。ナシヒメコンを使用する場合はコンフューザーより残効が期待されるため、越冬成虫等の対策として開花前の4月20日までに設置する。コンフューザーは残効が劣るので6月上旬頃に設置する。
3	満開10日後	展着剤	—	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	—	—	○訪花昆虫には十分注意する。 ○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(3日前/9回以内)を散布する。 ○アブラムシ類の発生が早い園地は、ウララDF2,000倍(14日前/2回以内)またはモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を加用散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおして、トップジンM剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(キャブレート水和剤、ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。
		輪紋病・うどんこ病・胴枯病・黒星病	3	ベンレート水和剤	2,000 倍	(50g)	前日	4回	
		ハダニ類	4	バロックフロアブル	2,000 倍	(50cc)	14日前	2回	
4	5月下旬 (5/25頃)	輪紋病・うどんこ病・胴枯病	5	ベンレート水和剤	2,000 倍	(50g)	前日	4回	○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(3日前/9回以内)を散布する。 ○山手などカメムシの被害が見られる園地では、ダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回以内)またはスタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○スカウトフロアブルはハマキムシ類に対する効果が期待される。
		シンクイムシ類・アブラムシ類	6	スカウトフロアブル	2,000 倍	(50cc)	前日	5回	
	6月上旬	【交信かく乱剤】 (性フェロモン剤)	—	コンフューザーN	【対象害虫】モモシクイガ・ナシヒメシクイ・チャハマキ・チャノコカクモン ハマキ・リンゴコカクモンハマキ・リンゴモンハマキ			200 本	使用時期→成虫発生初期から終期 使用方法→ディスペンサーを対象作物の枝に巻きつけ設置する。 ○防風ネットを設置し、園地の中心部より外側を多めに設置する。 ○傾斜地では、下方より上方部に多めに設置する。
			—	コンフューザーR	【対象害虫】モモシクイガ・ナシヒメシクイ・リンゴコカクモンハマキ・ミダレカクモンハマキ・リンゴモンハマキ			100 本	
5	6月上旬	展着剤	—	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	—	—	○これ以降、新梢伸長期となり枝葉が茂ってくるので、薬液量を厳守する。
		輪紋病・黒斑病・心腐れ症(胴枯病菌)・黒斑細菌病	7	デランフロアブル	1,000 倍	(100cc)	60日前	4回	
6	6月中旬	固着性展着剤	—	アビオン-E	1,000 倍	(100cc)	—	—	固着性展着剤は確実に加用する。 ○梅雨期間の防除は、降雨の影響をうけ不定期となりやすいので、十分な薬量と丁寧な散布に心がける。 【梅雨期のポイント】 ・晴れ間を逃さず、雨前散布を徹底する。 ・固着性展着剤を加用する。 ・降雨が多い場合は殺菌剤を追加散布する。 (有機銅の場合は100mmの降雨で残効がなくなる。) ・薬液量をしっかりとかける。
		輪紋病・炭そ病・黒斑病・うどんこ病	8	アミスター10フロアブル	1,000 倍	(100cc)	前日	5回	
		シンクイムシ類・カメムシ類・コナカイガラムシ類・アブラムシ類・ケムシ類・チュウゴクナシキジラミ	9	ダントツ水溶剤	2,000 倍	(50g)	前日	3回	
		ハダニ類	10	ダニコングフロアブル	2,000 倍	(50cc)	前日	1回	
7	6月下旬	固着性展着剤	—	アビオン-E	1,000 倍	(100cc)	—	—	○キャブレート水和剤に含まれるキャブタン総使用回数は9回以内、ベノミルの総使用回数は6回以内(但し、塗布は2回以内、散布は4回以内)
		輪紋病	11.12	キャブレート水和剤	600 倍	(166g)	7日前	4回	

令和7年度 JA山形おきたま 西洋梨(コンフェザー体系)病 害 虫 防 除 基 準 ② 西洋なし振興部会

回数	時 期	対 象 病 害 虫	成 分 回 数	薬 剤 名 及 び 濃 度 (水 100 ⅴ 当 り 薬 量)			収 穫 前 使 用 日 数	総 使 用 回 数	散 布 量 1 0 a	一 般 資 材	注 意 事 項
8	7 月初旬 (7/5頃)	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000 倍	(100cc)	-	-	500 ⅴ	バイカルティ 1000倍 または ハワーシマⅡ 1000倍	○混用により凝集するため、しっかり攪拌する。 ○本欄の薬剤は収穫前使用日数が45日前となっているので、早生種の収穫を考慮して、遅れずに散布する。 ○7～8月は、カメムシ対策を徹底（飛来を確認したら防除） ○輪紋病防除のポイント時期（散布間隔を空けないこと）
		輪紋病・黒星病・黒斑病	13.14	ベフキン水中和剤	1,000 倍	(100g)	45日前	4回			
		シンクイムシ類・ハマキムシ類・アブラムシ類・クワコナカイガラムシ	15	サイアノックス水中和剤	1,000 倍	(100g)	無袋栽培 45日前	3回			
9	7 月中旬 (7/15頃)	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000 倍	(100cc)	-	-	500 ⅴ	バイカルティ 1000倍 または ハワーシマⅡ 1000倍	○ナリアWDGはルレクテ、ピオーネの葉・果実および藤稔、サニールージュ、シャルドネの葉への薬害に注意 ○遅れないよう散布する。
		輪紋病・炭そ病・うどんこ病・黒斑病	16.17	ナリアWDG	2,000 倍	(50g)	前日	3回			
		ハダニ類・ニセナシサビダニ	18	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	(50cc)	前日	1回			
10	7 月下旬 (7/25頃)	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000 倍	(100cc)	-	-	薬液量厳守 600 ⅴ	バイカルティ 1000倍 または ハワーシマⅡ 1000倍	【シンクイムシ類対策】 世代を追って密度が増加することが考えられ、8月以降の防除は重要となる。とくに今後、気温が高く経過する場合は、殺虫剤の間隔があかないよう、備考欄の薬剤を加用散布する。
		輪紋病・黒星病・黒斑病	19.2	オキシラン水中和剤	600 倍	(166g)	3日前	9回			
		シンクイムシ類・アブラムシ類・カメムシ類・ハマキムシ類・ハダニ類	21	テルスター水中和剤	1,000 倍	(100g)	前日	2回			
11	8 月上旬	展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-	600 ⅴ		★降雨が続く場合はオキシンドー水中和剤80に代えて、キャブレート水中和剤600倍（7日前/4回以内）もしくはナリアWDG2,000倍（前日/3回以内）を使用する。 ○早生種は収穫前使用日数を厳守 ○シンクイムシ類などの発生が見られる場合には、ダイアジノン水中和剤34 1,000倍（14日前/6回以内）を加用散布する。※早生品種の収穫前日数に注意。
		輪紋病	22	オキシンドー水中和剤80	1,200 倍	(83g)	3日前	9回			
12	8 月中旬	展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-	600 ⅴ		○オキシラン水中和剤は、りんごの登録が14日前となっているので、早生りんご植栽園と隣接する場合は注意して散布する。 ○ハダニの発生が遅くまで見られる園地では、8月中旬のコロマイト水中和剤を8月下旬に使用する。（注意：使用回数1回） 【有機銅水中和剤の総使用回数について】 オキシンドー水中和剤80、キノドー水中和剤80、ベフキン水中和剤、オキシラン水中和剤については、有機銅を含むことから、総使用回数9回（散布）を超えないように注意する。 ※”なし”での総使用回数12回以内（塗布は3回以内、散布は9回以内）
		輪紋病・黒星病・黒斑病	23.24	オキシラン水中和剤	600 倍	(166g)	3日前	9回			
		シンクイムシ類・カメムシ類・コナカイガラムシ類・アブラムシ類・ケムシ類・チュウゴクナシキジラミ	25	ダントツ水溶剤	2,000 倍	(50g)	前日	3回			
		ハダニ類	-	コロマイト水中和剤	2,000 倍	(50g)	前日	1回			
13	8 月下旬	展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-	600 ⅴ		○シンクイムシ類の発生が見られる場合はエクシレルSE2,500倍（前日/3回以内）を加用散布する。 ★秋雨前線が停滞し降雨が続く場合は、梅雨期同様に防除を徹底する。（特に高温多湿が続く様な場合には、防除を前倒しするか間に入れる。） ★最後まで薬量を減らさず600ⅴ以上を散布する。
		輪紋病・炭そ病・黒斑病・うどんこ病	26	ストロビードライフロアブル	2,000 倍	(50g)	前日	3回			
14	9 月上旬 (晩生種対応)	展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-	600 ⅴ		○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍（前日/—）を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。 ○例年、ナシヒメシンクイの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナシヒメシンクイの活動時間帯（18～22時頃）の気温が15℃以上の日が続く場合は9月下旬にバリアード顆粒水中和剤2,000倍（前日/3回以内）を散布する。 ○黒斑細菌病がみられる園地では、収穫後に菌密度の低下を狙いVCボルドー412 30倍（-/）を散布する。
		輪紋病	27	オキシンドー水中和剤80	1,200 倍	(83g)	3日前	9回			
15	9 月中旬 (晩生種対応)	シンクイムシ類・アブラムシ類	28	スカウトフロアブル	2,000 倍	(50cc)	前日	5回	600 ⅴ		
		展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-			
16	特別散布	輪紋病・炭そ病・黒斑病・うどんこ病	29	アミスター10フロアブル	1,000 倍	(100cc)	前日	5回	600 ⅴ		【注意】オキシンドー水中和剤80については、収穫時期となる品種もあるため、収穫前日数に注意する。
		展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-			
17	落葉後	輪紋病	30	オキシンドー水中和剤80	1,200 倍	(83g)	3日前	9回	600 ⅴ		
		展着剤	-	マイリノー	10,000 倍	(10cc)	-	-			
17	落葉後	越冬病害虫	-	石灰硫黄合剤	10 倍	(10ⅴ)	発芽前	-	500 ⅴ		ラ・フランス専用肥料 有機100%の施用 収穫直後 7～8袋／10a 雪解け直後 2～3袋／10a
		固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000 倍	(100cc)	-	-			

この防除基準は、令和6年12月11日現在の適用内容により作成しています。

【輪紋病対策】 梅雨期の降雨が多い場合や降雨が続く、散布が前倒しとなった場合は殺菌剤を追加散布する。ただし、“なし”での有効成分の総使用回数を遵守する。

令和7年度 J A山形おきたま もも 病 害 虫 防 除 基 準 ① もも振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用 日数	総 使 用 回 数	散布量 (10a)	一般資材 ・備考	注 意 事 項
① ／	発芽前	モモアカアブラムシ、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍(2%)	発芽前	—	350%		○出来るだけ暖かく風のない日を選んで、枝先から樹元まで丁寧に散布する。 ○剪定の切り口には、トップジンMペーストまたはバツレト(3回以内)を原液で塗布する。 ○せん孔細菌病の発生が多かった圃地は、ICボルドー散布前にカシボルト500倍(開花前まで3回以内)を散布する。 ○ヨコモリが対策として、周辺も含めた圃地の清掃、除草を行いきれいにしておく。(特に幹周辺はきれいにしておく) ○カイガラムシ類の発生が多い樹では、休眠期に高圧水による洗い流しや、ワイヤーブラシがけを行なう。 ○前年落葉期にラビキア乳剤を行わなかった場合は、ユスシハ対策として、カットサイトS 1.5倍液(30日前/1回)を樹幹部および主枝に塗布する。(総使用回数のカウントは収穫後からとなり、ラビキア乳剤とカットサイトSは同一成分を含むため、落葉期のラビキア乳剤とカットサイトSの併用は不可)
	縮葉病必須防除							
	発芽するまでに必ず散布	黒星病、灰星病、せん孔細菌病、縮葉病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	7日前	5回以内			
	カイガラムシ対策強化	カイガラムシ類幼虫	アブロードフロアブル 1,000倍(100cc)	14日前	3回以内			
② ／	開花直前 (花弁の見える時まで)	せん孔細菌病	ICボルドー412 30倍(3.3kg)	—	—	350%		○せん孔細菌病の感染が始まる時期なので、前年発生の多かった圃地は必ず散布する。
③ ／	落花直後 (5月上旬)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	350%		せん孔細菌病 生育適温は、25℃前後で葉や果実の気孔や傷口から侵入する。風当たりの強い圃や湿度の高い圃では発生が多い。 対策と耕種的防除 ①防風網を設置する。 ②伝染源となる春型病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、圃地を見回り早期発見に努める。 ③収穫後のボルドー液散布。(間隔を空けずに散布する)
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病	オーシャインフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	3回以内			
		せん孔細菌病	ストマイ液剤20 1,000倍(100cc)	60日前	2回以内			
		ハマキムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ、コスカシバ	フェニックスフロアブル 4,000倍(25cc)	前日	2回以内			
④ ／	5月中旬 (幼果期)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		○モモハモグリガやシンクイムシ類等の対策として、5月中～下旬にエンフーサー-MM100～120本/10aを設置する。
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、せん孔細菌病	デランフロアブル 600倍(166cc)	7日前	4回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類、カメムシ類、アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑤ ／	5月下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		○カメムシ類の被害がみられる場合は、ダイアジノン水和剤34に代えてミチオン水和剤40 1,000倍(3日前/6回以内)を加用する。
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、うどんこ病、すすかび病、果実赤点病	ベルコート水和剤 1,500倍(66g)	前日	3回以内			
		せん孔細菌病	マイコシールド 1,500倍(66cc)	21日前	5回以内			
		アブラムシ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	前日	4回以内			
⑥ ／	6月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		○カメムシ類の発生には常に注意する。
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、せん孔細菌病	デランフロアブル 600倍(166cc)	7日前	4回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	5回以内			
		ハダニ類	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回			
⑦ ／	6月中下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		○シンクイムシ類やハマキムシ類の発生が多くなるので注意する。
		黒星病、灰星病、せん孔細菌病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	7日前	5回以内			
		ハマキムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	エクシレルSE 5,000倍(20cc)	前日	3回以内			○せん孔細菌病の多発生が懸念される場合は、マイコシールド1,500倍(21日前/5回以内)を散布する。早生品種がある場合は収穫前日数に注意する。

〔せん孔細菌病対策〕圃地を見回り、春型病斑を発見次第切り取り、適切に処分する。

令和7年度 J A山形おきたま もも 病 害 虫 防 除 基 準 ② もも振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材・備考	注 意 事 項
⑧ ／	7月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		
		灰星病、黒星病、ホモブシス腐敗病、うどんこ病、炭そ病、果実赤点病、すすかび病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	2回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前	6回以内			
⑨ ／	7月中旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		
		灰星病、うどんこ病、ホモブシス腐敗病、すすかび病、果実赤点病	ベルコート水和剤 1,500倍(66g)	前日	3回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類、カメムシ類、アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍(25g)	前日	3回以内			
⑩ ／	7月下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%	カルシウム肥料 バイカルティ 1,000倍	○灰星病の被害果は見つけ次第取り除き土中に埋める。
		灰星病、黒星病、ホモブシス腐敗病、炭そ病、うどんこ病	オンリーワンフロアブル2,000倍(50cc)	前日	3回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	5回以内			
⑪ ／	8月上旬 ～ 8月中旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%	カルシウム肥料 バイカルティ 1,000倍	○ウメシロカイガラムシがみられる園地では、ハリアード顆粒水和剤に代えてコテツフロアブル2,000倍(前日/2回以内)を散布する。※ネクサリンの収穫前日数は7日前なので注意する。 ○この回の散布から収穫期まで、防除間隔が空いたり不順天候が続く場合、または、シンクイムシ類の発生が懸念される場合は、次の薬剤を繰上げて散布する。
		灰星病、黒星病、ホモブシス腐敗病、うどんこ病、炭そ病、果実赤点病、すすかび病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	2回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	ハリアード顆粒水和剤 4,000倍(25g)	前日	3回以内			
⑫ ／	晩生種 8月下旬 ～ 9月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		○この時期までに収穫が終了した園地では、せん孔細菌病対策のためインダーフロアブルに代えてデランフロアブル600倍(7日前/4回以内)を散布する。
		灰星病、黒星病	インダーフロアブル 5,000倍(20cc)	前日	4回以内			
		ハマキムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	エクシレルSE 5,000倍(20cc)	前日	3回以内			
⑬ ／	収穫直後 (9月中旬)	せん孔細菌病	ICボルドー412 30倍(3.3kg)	—	—	400%		○収穫終了後、できるだけ早く散布する。 ○収穫中または、収穫前の極晩生種には飛散しないよう注意する。
		固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—			
		ハマキムシ類、シンクイムシ類、アブラムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前	6回以内			
⑭ ／	前回散布 10日後 (9月下旬)	せん孔細菌病	ICボルドー412 30倍(3.3kg)	—	—	400%		○モミハモグリガの発生が多い場合は、ICボルドー412にフィニックスフロアブル4,000倍(前日、2回以内)を加用する。 ○ICボルドー412に代えてコサイト3000、2,000倍(収穫後～落葉まで/-)を散布しても良い。※コサイト3000とフィニックスフロアブルは混用事例がないため混用しない。 ※コサイト3000を使用する場合は葉害軽減のためクレファン100倍(-/-)を加用する。 ○せん孔細菌病多発園では10月中旬までにもう一度ICボルドー412 30倍(-/-)またはコサイト3000の2,000倍(収穫後～落葉まで/-)を追加散布する。
		固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—			
⑮ ／	収穫後 (9月中旬～ 10月中旬)	コスカシバ	トラサイドA乳剤 200倍(500cc)	収穫後～ 萌芽前 (幼虫食入期)	1回	350%		○トラサイドA乳剤は葉にかかると薬害の恐れがあるため、枝幹部のみに散布する。 ○縮葉病が多い園地では、12月中旬頃に石灰硫黄合剤10倍(発芽前/-)またはオキシラン水和剤500倍(発芽前/4回以内)を散布する。 ○スミチオン水和剤40、トラサイドA乳剤、ガツサイトSは、同一成分を含み、総使用回数6回以内(樹幹処理は1回)とする。 ※総使用回数のカウントは収穫後の防除からとなるので、翌年の防除の際は注意する。 コスカシバの圧殺 ○コスカシバの虫糞が出ているところを 木づち等で軽くたたいて圧殺する。

この防除基準は、令和6年11月13日現在の適用内容により作成しています。